



中央家保 BSE 検査所情報

熊本県中央家畜保健衛生所 〒861-1300 菊池市七城町蘇崎 1293-1
TEL 0968-26-3200 FAX 0968-26-3201
Eメール chuuoukaho@pref.kumamoto.lg.jp

乳房炎コントロールを実践しましょう！！

乳房炎は、乳牛において最も頻繁に発生しコストがかかる疾病です。費用対効果を高めるためには、治療を行うよりも**新規感染を防止**することがなにより重要です。BSE 検査所にも乳房炎に罹患した後に死亡した個体が多く搬入されており、夏場にはその割合が多くなる傾向もあります。

今回は、先日開催された酪農セミナーの講習内容についてご紹介しますので、今後の飼養管理の参考にしてください。

(講師 ウィスコンシン大学 パメラ教授 現在全米乳房炎協議会 会長)

乳房炎とは

- ・ 乳房内の細菌感染によって発症する病気
- ・ 以下のように大別される
 - ┌ 潜在性：正常乳に見えるが、多量の炎症細胞が含まれている
 - └ 臨床型：視覚的に異常な牛乳
 - ┌ 伝染性：主に**黄色ブドウ球菌**が原因となる（多くの場合は潜在性）
 - └ 環境性：主に**大腸菌群**が原因となる（多くの場合は臨床型）

各タイプの特徴

- **潜在性乳房炎**
 - ・ 半数以上（約 56%）は、原因菌が検出されない。
→ サンプル採取の時期により結果が異なるため。
 - ・ ほとんどの菌が乳房炎の原因になるが、多くは**環境性ブドウ球菌**・**レンサ球菌**および**黄色ブドウ球菌**による。
- **臨床型乳房炎**
 - ・ 25~30%は、原因菌が検出されない（牛自身の免疫システムにより排除される）。
 - ・ 約 50%は、治療の必要がないか短期間の治療で済む。
- **伝染性乳房炎**
 - ・ 多くの場合、潜在性の罹患乳房からティートカップを介して搾乳中に他の分房へ感染する。
 - ・ ほぼ完全に根絶することができる。
- **環境性乳房炎**
 - ・ 原因菌は環境中に生息しており、多くの場合、搾乳と搾乳の間に感染する。
 - ・ 根絶することは難しい。

乳房炎コントロールを実践するためのポイント

● 伝染性乳房炎

- ・ 確実なティートディッピング（効果的ではない例が多く認められる）
- ・ 臨床型乳房炎の適切な治療（全ての乳房炎を記録しておく）
- ・ 慢性感染牛の淘汰（他の牛への新規感染リスクを下げる）

● 臨床型乳房炎

- ・ 実際の発生率を知ることは非常に難しいので、乳房炎症状スコアを記録することが重要（繁殖農家の種付・妊娠記録と同じくらい重要）

- スコア 1：異常乳のみ
- スコア 2：異常乳と乳房の異常
- スコア 3：異常乳・乳房の異常および全身症状

（発熱・食欲不振・乳量減少など）

- ・ 多くの場合、スコア 1～2である（通常 75～95%）。
- ・ 必要に応じて、獣医師に適切な薬で必要な期間 治療をしてもらう。

死亡牛の適正処理に御協力お願いします

受付時間外の搬入や腐敗牛の持ち込みが、若干見受けられます。

受付の時間は以下のとおりですので、時間内に搬入して下さるようお願いいたします。

★7月～9月の受付時間★

日曜日と祝日は休業です

月曜日～金曜日	土曜日	日曜日 祝日
8:30～11:30 13:00～15:00	8:30～11:30 13:00～15:00	休業

*連休等の日程については、受付に置いてある別紙を参照してください。
今後も、飼養している牛が死んだ場合には迅速な搬入をお願いいたします。

詳細や不明な点については、
中央家畜保健衛生所 BSE 検査所までご連絡ください
電話：0968-26-3200

<http://www.pref.kumamoto.jp/site/617/>